

## 《課題名》

循環器疾患患者への多職種介入アプローチが及ぼす効果の検討：後方視的研究

## 《研究対象者》

当院にて2015年5月～2017年3月末までに心臓リハビリテーションを受けられ、心臓病教室に参加された患者様

## 研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医科大学で既に保有している臨床情報を調査する研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報等の使用について、直接説明しての同意はいただかずに、このお知らせをもって公開いたします。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

この研究への参加（情報提供）を希望されない場合、あるいは、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

### （１）研究の概要について

研究課題名： 循環器疾患患者への多職種介入アプローチが及ぼす効果の検討：後方視的研究

研究期間： 滋賀医科大学学長承認日～2020年3月31日

研究機関・実施責任者： 滋賀医科大学 滋賀医科大学医学部附属病院リハビリテーション部 澁川 武志

### （２）研究の意義、目的について

心不全患者数は2030年に130万に達すると予想されています。心不全は増悪と寛解を繰り返し、徐々に悪化していく病気です。心不全患者様への患者指導を徹底すれば、自己管理能力が向上し、再入院率の低下が期待できると考えられています。また、日本循環器学会の「慢性心不全治療ガイドライン」に「多職種による包括的疾患管理プログラム」としてチーム医療の重要性が記述されています。内容として、多職種による自己管理能力を高めるための教育、相談支援、セルフチェック用の資料作成、治療チェックリスト使用の徹底等が求められています。包括的疾患管理プログラムによるチーム医療は再入院率を低下し長期予後を改善するという有効性が報告されていますが、チームの構成メンバーや介入方法はまだまだ標準化されておらず、それらを明らかにする調査・研究が重要となります。

そこで今回、心臓病手帳を用いて行いました集団指導「心臓病教室」を中心とした多職種による介入アプローチがどのように影響したかを診療録からの情報を基に調査・分析いたします。これらにより、チーム医療の内容充実や患者指導方法の適正化、円滑な医療連携システムを構築することなどを目的としています。

### （３）研究の方法について

診療録より、患者様の基本背景、各検査所見、心臓病教室の各項目の参加率、心臓リハビリテーション外来通院の有無、心不全セルフケアアンケート評価、心臓病手帳の使用状況、退院から1年間の再入院歴・死亡や心血管イベントの発生歴等の有無について収集します。収集し得たデータはパソコンに入力し保存します。収集し得たデータに関しては、統計処理ソフト(SPSS、等)を用いて統計学的検定法を用いて解析を行います。

### （４）個人情報の取扱いについて

研究にあたっては、個人情報を直接同定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。

### （５）研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

#### **(6) 研究計画書等の入手又は閲覧**

本研究の対象となる方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。

#### **(7) 利用又は提供の停止**

研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される情報の利用（又は他の研究への提供）を停止することができます。停止を求められる場合には、2018年3月31日までに下記（8）へご連絡ください。

#### **(8) 問い合わせ等の連絡先**

《窓口》 滋賀医科大学医学部附属病院リハビリテーション部 澁川 武志

住所 : 520-2192滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号 : 077-548-2670(直通)

メールアドレス : shibut@belle.shiga-med.ac.jp